

上田市教育委員会 3月定例会会議録

1 日 時

平成25年3月14日(木) 午後1時30分から午後3時50分まで

2 場 所

上田市教育委員会(やぐら下庁舎) 2階会議室

3 出席者

委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	城下 敦子
委 員	小市 正輝
委 員	山崎 順子
教 育 長	小山 壽一

説 明 員

武井教育次長、廣川教育参事、小野塚教育総務課長、倉島学校教育課長、津久井放課後こども育成係長、小山人権同和教育政策幹、土屋文化振興課長、浅野生涯学習課長、佐藤スポーツ推進課長、児玉丸子地域教育事務所長、掛川武石地域教育事務所長、藤沢真田地域教育事務所長、宮之上第一学校給食センター所長、大滝上田図書館長、倉澤博物館長、神林中央公民館長、坪田上野が丘公民館長、綿内川西公民館長

傍 聴 者 1人

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 上田市教育委員会組織規則の一部改正について(教育総務課)

資料1により小野塚教育総務課長説明

山崎委員

改正の目的はわかったが、市民にとって具体的に何がどう変わるのかを説明いただきたい。

倉島学校教育課長

実態としては、それほど変わらないと思われるが、現在、教育相談所と発達相談センターの所長は兼務という形で勤務しているので、人数的に教育相談所は3.5人体制であるが、これが4人体制となるという期待を持っている。

小山教育長

定数の話だけでなく、今年度は発達相談センターと教育相談所をさらに連携させて動かすために、教育相談所長と発達相談センター所長を兼務させた経緯がある。その結果、連携が進んできたが、次にそれぞれの課所に課長相当職を置くことになった。しかし、この課長職は、当面、例えば教育相談所長については学校教育課長が兼務するという形になる。来年度以降さらにどのように連携を取っていくのかということが課題であると認識している。

小市委員

連携をきちんと取っていくということは非常に重要なことである。現場のニーズ、子どもたちが抱えている課題、様々な社会的状況から考えて、さらに組織を充実させていくステップの第一段階であると理解しているので、是非進めてもらいたい。

西田委員長

行政改革として、どちらかというシンプルにしようとする中で、人を増やすということの認識はどうか。

小野塚教育総務課長

確かに、行政改革ではコンパクトな組織と人員配置が求められるが、教育相談所と発達相談センターがこれから連携して進めていく中での位置付けとしての格上げと考えている。人員的にはおそらく兼務にはなると思われるが、課長職を配置し組織そのものに権限を与えることで機能強化につながると思われる。

全委員 了承

(2) 教育行政評価及び目標管理について(教育総務課)

資料2により小野塚教育総務課長説明

城下委員

目標管理は他部局と同じシートを使っているので教育委員会独自にはできないが、教育行

政の事務の点検及び評価シートは教育委員会だけのものであり、これは誰に向けて作成しているかということを考えると、例えば言葉の説明があるなど、市民目線に立って読みやすく、分かりやすいものがよい。

また、PDCAサイクルであるが、チェックからアクションへの段階において、抽象的でなく次の展開につながっているところが見えるとよい。

他市の教育委員会の状況を見ると、上田市と同じようなところも多いが、そもそもまず初めに教育委員会とは何かというところから導入しているところもあった。市民に説明責任を果たすという意味からも行政評価があり、教育委員会はこんなことをやっている、そして点検評価しているのだという流れを見せ、うまく説明責任を果たせるようなものができる市民の疑問にも答えることができるのではないかと。

小野塚教育総務課長

これまでも少しずつ様式を変え、PDCAの形を取り入れるなど、改善しながら進めてきた。指摘のとおり、市民にとってわかりづらい部分もあると思われるため、できる限り平易な言葉で、専門的なところは注釈を付けるなど検討したい。

教育委員会とは何かという説明から導入するという意見だが、評価懇話会を経て公表していくときには、なぜこれを行っているのかという説明も加えられた一冊の冊子としており、本日は評価シートだけを協議してもらったためこのような形になっている。法的な根拠や懇話会の状況などが今回は抜けているので御了解願いたい。

山崎委員

23年度の「学ぶ意欲を育む授業づくり」の中には、真田のスポーツクラブから小学校の体育授業へ教師を派遣していることも評価をしてもらいたいという意見があり、それに対して授業の状況を把握していきたいとあるが、今回載っていないのは継続した事業ではないということか。

倉島学校教育課長

本年度も授業をしており、各学校の報告をとりまとめている状況である。懇話会の要望に沿って行っている。

ただし、取組はこのこと以外にもたくさんあり、特に中心となるような事業を拾って評価に載せているので御理解願いたい。

小山教育長

教育行政評価は、今まで1年遅れでやってきた。つまり、前年度の教育行政評価を次年度の7月から8月にかけて行い、市民の代表による懇話会で評価いただき、それを定例教育委員会にかけた上で、9月議会の総務文教委員会に提出していた。だが、7月8月になって評価しても新年度に反映されないということから、24年度の教育行政評価は自己評価として半年早めて本日提示している。正式なものは懇話会を経るが、懇話会は7月8月になるためタイムラグがある。

小市委員

例えば「学ぶ意欲を育む授業づくり」については、期末報告に100%達成とあるが、25年度の重点管理シートの同じ項目では24年度と同内容である。前年度に100%達成されているのであれば、25年度はさらにそこに新たな課題を加えていく必要があるのではないかと。

いか。例えば、これまでの「学ぶ意欲を育む授業づくり」の内容はハード面よりであったが、ソフト面として学校現場がどのように受け止めていて、今後どういう意識を持って取り組んで行くのかといった中身を盛り込んだほうが前進していくのではないか。

また、それぞれの取組の中に、地域の教育力を活かすという部分と地域の教育力が低下しているという、相反する中身が書かれている。家庭教育と地域の教育力の低下について評価が違っているが、もう少し切り込んで分析する必要がある。

倉島学校教育課長

目標の定め方として、できるだけ数値目標を盛り込み分かりやすい形で示そうという基本的な考え方があり、どう表すかという難しい面がある。

また、それぞれの取組内容には、なかなか統一がとれていない部分もあるかと思う。ひとつの考え方として、地域全体の教育力は以前から比べて落ちている。けれども、中には学校で是非活かしたいという部分もあり、それぞれがそういった意味合いを込められて書かれていると御理解願いたい。

城下委員

昨年度と同内容であっても見えないところで動きがあるのだろうが、書面だけでは1年間何も進展しなかったようにも見える。細部ではあの手この手があるのだったら、何か動きを表記することがスタート時点では必要ではないか。

また、前年度の反省があるのに、次年度の目標に全く反映されていないというのは、単発的に見えたり、別の目標に飛びついたりという印象になりとても損である。

学校給食に関する基本的な計画の策定については、2年連続の評価Cであり、25年度の重点目標から外されているがそれで良いのか。

キャリア教育については、のぼり旗による地域の啓発に関して、学校教育課の実施状況に事業費が載っているが、生涯学習課にも同じものがある。どちらが主としてやっているのか。

小山教育長

予算のある事業も予算のない事業も取組項目として扱うため紛らわしい面もあると思う。目標管理では、やはりお金を掛けているものを主として記載することになり、なかなか予算と関わらない取組が重点目標には出てこない。

教育行政に係る事務の点検及び評価では、もちろん予算も載っているが、市教委が教育行政をどう行っているのかということ(point check)を点検してもらうものであるので、目標管理でなくこちらのほうを工夫して、ただいま出された意見や考え方を反映していきたい。

城下委員

営繕工事については、直ぐに対応できるように予備費のような形のものがあるのか。

小野塚教育総務課長

営繕費としての予算が4,000万円ほどあり、その予算で36校分の改築や営繕費用としている。また、例えば500万円かかるというような少し大掛かりな改修は、別に予算取りをしながら行っている。

城下委員

これは案となっているが、こうした案として資料ができあがる前に話し合いの場をもった

ほうがいいのではないか。

小野塚教育総務課長

案となっているのは今後の懇話会に提出する資料であるためだが、以前6月頃に作成していたものを年度内に自己評価した。この案について教育委員の意見をもらいながら修正していく流れであり、この年度末の時期に合わせてやらなければならない、今回相談をかけていると御理解願いたい。

山崎委員

重点目標にはスポーツ環境の整備とあるが、上田城跡公園のプールが含まれていない。

佐藤スポーツ推進課長

城跡公園内の50mプールは、昨年までも必要な修繕や小工事は行ってきている。大規模な改修等を新年度に予定していないため、特に重点目標管理シートの中には掲げていない。

城下委員

25年度から始まる第二中学校の改築の関係から、二中の生徒は城跡公園のプールで体育の授業を行う。現在、プールの床は傷んでおり古い状況である。中学生がプールの授業をするのであれば安全面からも修繕という形で目標に載せてはどうか。

佐藤スポーツ推進課長

城跡公園の50mプールを二中の改築に合わせて学校の授業でも使用することは承知している。いずれ修繕が必要な部分も確かにあるが、当面は今のままで使用できると判断している。目標に載せている自然運動公園の50mプール塗装改修は、城跡公園とは別である。

城下委員

重点目標「生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備」の中の と の違いは何か。

佐藤スポーツ推進課長

については、生涯スポーツ社会に向けて、情報発信、競技力向上の取組、誰もが気軽にスポーツに親しむ機会の拡大などを総合的に実施して進めていきたいということである。

については、総合型地域スポーツクラブの活動を支援することによって、様々なスポーツの振興につなげていくことが中心の考え方である。

城下委員

総合型地域スポーツクラブとは何か。

佐藤スポーツ推進課長

文科省が十数年前から推進してきたものであり、従来、スポーツはそれぞれの種目ごとにそれぞれの競技団体が普及や強化に取り組んできたが、総合型地域スポーツクラブは複数の種目にさまざまな形で関わる。つまり、市民がいろいろなスポーツに取り組み、体力づくりであったり、競技力向上であったり、子どもからお年寄りまで、体を使うことが可能になる。そうした取組がこれからの日本におけるスポーツ振興にとって有益であることから、総合型地域スポーツクラブの育成が進められてきた。

合併前の真田町及び武石村においては、自治体全体を活動範囲とする総合型地域スポーツクラブをつくる方針で、真田スポーツクラブ、武石スポーツクラブを行政一体でつくってきた経過がある。旧上田市、旧丸子町においては、全体を網羅するような形の総合型スポーツクラブの設立はなかったが、それぞれ特定の地域の中で総合型スポーツクラブを結成してきた経過がある。現在、上田市には、真田、武石を含めて5つの総合型地域スポーツクラブがある。この5つの総合型地域スポーツクラブが目指すものは、将来的にはそれぞれの会員による会費ですべて自主的に運営していかれるような自立したクラブを目指している。しかし、すぐにはできないので、一定の期間を区切って上田市が補助金を出してきた経過があり、スポーツ推進課としても引き続き支援をしていきたいと考えている。

西田委員長

懇話会には、本日の意見を踏まえて提案していただきたい。

全委員 了承

(3) 特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部改正について(学校教育課)

資料3により倉島学校教育課長説明

西田委員長

予算額どれくらいか。

倉島学校教育課長

24年度で1,057万円ほどである。人数によって変わるが、24年度よりもさらに上乘せになると思われる。

城下委員

就学奨励費支給の対象者が広がったということの周知は、保護者に先生が説明することになるのか。

倉島学校教育課長

教育委員会から各学校に知らせ、学校では対象者が把握できているので各御家庭に案内することになる。これまでの状況を見ると、対象者が全て補助金を申請してくるということでもない。

全委員 了承

(4) 浦里小学校学校運営協議会委員の任命について(学校教育課)

資料4により倉島学校教育課長説明

城下委員

任期に制限はあるか。

倉島学校教育課長

特に定めはない。

全委員 了承

(5) 上田市人権施策基本方針(第1次改訂)について(生涯学習課)

資料5により小山人権同和教育政策幹説明

小市委員

基本方針14Pにある「さまざまな場における人権教育・啓発の推進」 学校について、今、学校では「生きる力」ということが言われ、その中では表現力、思考力、判断力が重要だとされている。そうした視点からも、人権教育が非常に大事なことと思う。例えば、表現力ではコミュニケーション能力の育成とあり、思考力判断力がなければ適正な判断はできない。方針のどこかに「生きる力」ということを含めることが良い。

小山人権同和教育政策幹

修正を検討したい。

城下委員

学校における人権教育と道德教育の違いは何か。

小山人権同和教育政策幹

道德教育の時間の中で、道德教育のひとつとして人権教育が行われていると聞いている。

小山教育長

道德は、1週間に1時間ずつ教育課程に位置付けられている。人権教育だけを道德教育でやっているわけではないし、道德の中でしか人権教育をやっていないのかということもそういうわけでもない。ホームルームでも人権学習をするし、人権教育月間を設けて学校を挙げて人権教育に取り組んでいるという学校が大半でもある。教育課程に人権教育の時間があるわけではなく、学校教育全体の中で人権を尊重する教育が行われている。それに対して道德というのは、教育課程の中に位置付けられている。

山崎委員

地域での啓発・推進ついてだが、年末に竣工式を行った城南公民館では、併記して城南解放会館とある。上田市内にはほかに2か所、解放会館が併記されている公民館があり、長い歴史の中でそうなったわけであるが、なかなか市民がそういうものを目にして考える機会もない。公民館に来る子どもたちにも簡単に説明できるようなものがあればいいと思うので検討して頂きたい。

全委員 了承

(6) 上田市指定文化財の指定について(文化振興課)

資料6により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

(7) 上田市博物館協議会委員の任命について(博物館)

資料7により倉澤博物館長説明

城下委員

女性登用率50%とあるが、男女比率を気にしているということか。

倉澤博物館長

内部の方針として、40%以上の女性任用が規定されている。

全委員 了承

(8) 山本鼎記念館運営審議会委員の任命について(博物館)

資料8により倉澤博物館長説明

全委員 了承

3 報告事項

(1) 第二中学校改築事業の進捗状況について(教育総務課)

資料9により小野塚教育総務課長説明

西田委員長

基礎図はあるか。また、耐震の強度計算はどの業者がやっているのか。耐震偽装の阿ネ八事件から資格問題などもうさく強度計算を完全にできるところが案外少ない。

また、いろいろな意見のある外観の塀の設計はどうか。

小野塚教育総務課長

基礎図等については実施設計の中につくられるが、現在、建物の実施設計をやっている段階である。塀についてはイメージでいろいろ考えてはいるが、まだ具体的にこのような塀にするというものはできていない。

小市委員

車両出入りの道路が非常に狭い。体育館の入口のところは桜が何本もあり、大型トラックが頻繁に入ってくることになる。近隣の住宅などにもくれぐれも気をつけて欲しい。

城下委員

代替で借用する市営プールの安全面も心配だが、柔道が会議室に畳を敷いてというのも、怪我など起きないように工夫していただきたい。

全委員 了承

(2) 学校教育関係寄付の状況(学校教育課)

資料10により津久井放課後こども育成係長説明

全委員 了承

(3) 生涯学習シンポジウム報告(生涯学習課)

資料11により浅野生涯学習課長説明

全委員 了承

(4) 第12回うえだ子ども文化祭実施報告(文化振興課)

資料12により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

(5) 美術品の寄附受納について(文化振興課)

資料13により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

(6) スポーツ関係市長表敬訪問者報告(スポーツ推進課)

資料14により佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

(7) 行事共催等申請状況について(学校教育課・生涯学習課・文化振興課・スポーツ推進課)

資料15- について津久井放課後こども育成係長説明

全委員 了承

資料15- により浅野生涯学習課長説明

全委員 了承

資料15- により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

資料15- により佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

4 その他

坪田上野が丘公民館長、掛川武石教育事務所長の退職あいさつ

閉会